

# 建設技術者のための この一冊

2020年3月号より「建設技術者のためのこの一冊」を連載しています。新旧の学術図書、随筆、小説等を紹介します。会員の皆様の自己啓発、幅広い見識の形成等にお役立てください。

## 理系白書 この国を静かに支える人たち

## 「理系」という生き方 理系白書2

## 迫るアジア どうする日本の研究者 理系白書3



理系白書 この国を静かに支える人たち	628円(税込)
「理系」という生き方 理系白書2	586円(税込)
迫るアジア どうする日本の研究者 理系白書3	639円(税込)

著者：毎日新聞科学環境部  
発刊：講談社

「理系白書」シリーズの第1作となった「理系白書 この国を静かに支える人たち」は、平成14(2002)年から平成15年に毎日新聞科学面に連載された「理系白書」をベースに、平成15年に書籍化された。「理系」を取り巻く政・官・民における現状や課題を分析し、「理系人への応援歌」として、日本の再生には科学・技術の充実が必要であり、理系人を積極的に登用し、処遇を改善することを訴えている。一方で「理系人よ、カラを破れ」と辛口の提言もしている。

さらに、文理の間にそびえる壁が日本社会の生き生きとした発展を阻害しているとの問題意識のもと、「壊そう、文理の壁」が平成17(2005)年に同新聞に連載された。これらの記事を加筆、再構成して「『理系』という生き方 理系白書2」が平成19年に出版された。

そして、平成21(2009)年に出版された「迫るアジア どうする日本の研究者 理系白書3」では、中国・韓国など科学技術の分野でも急成長を遂げるアジアの現状を取材するととも

に、日本の力が本物なのか、検証を試みている。

これら3部作が出版されて十年以上が過ぎている。多少改善されたこと、より深刻となっていることがあるものの、本書で述べられてきた論点は本質的に変わっていないのではないだろうか。

文系・理系に限らず、多様な人材を活用することが社会にとって有用なはずである。

本誌の読者は、全国でインフラの整備・管理を担っており、「理系」が多いことと思う。「理系」は専門外や社会の動きには無関心で視野が狭く融通がきかないと言われることがあるが、そうだろうか。専門的な技術を習得、伝承し、深化させていくことは不可欠である。それとともに、自分の専門分野以外の科学技術や政治、法律、経済、歴史、文化など、幅広い見識を持ち合わせることにより、社会の役に立つ施策や地域に根差した事業が実現できることがあるのではないだろうか。